

図画工作教育講座 1 2 《 初めての木版画 》



- なぜ 4 年生で木版画を？
- ①刃物を安全に扱う能力が備わってきた年齢
 - ②白黒の表現の美しさを感じ取れる段階
 - ③子どものデータベースを増やす 描くから彫るへ
塗るから刷るへ

※ 初歩段階の版木は、A 4 判程度の大きさが子どもの負担が少ない。

1 予告

版画の場合も、いきなり取り組むのではなく、1 週間ほど前に予告して子どもたちが「想を温める」時間をつくる。

2 参考作品（予告のときに）

前の学年が 4 年生のときに作った版画を見せるメリット

- ① 知っている人の作品は、親近感と興味関心を持ちやすい。
- ② 「これなら自分にもつくれそう」と、**安心感**がある。

※ 初期なので版画表現の基本である「黒のかたまり」の作品が望ましい。
適当な作品がないときはネットで「木版画 小学校」と検索。



3 全体計画

教師が考えている全体像を子どもたちに情報開示することで、

- * 子どもは見通しを持って作業に取り組むことができる。
(初めての経験だから、子どもは全体像が掴めていない)
- * 全体像が分かるので、自分で進度を調節できる。
(次は[彫り]だから白黒を早く決めよう、などと)

子どもたちは主体的に取り組むことができる。

木はん画の全体計画

1	どんな絵にするか決める	今週 2時間
2	下絵をかく	
3	版木に写す	来週 2時間
4	白黒分け	
5	彫刻刀で彫る	2時間
6	インクを付けて刷る	2時間
7	題名を考える	

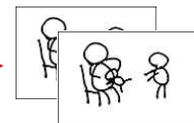
4 主題

生活画のときの「いどだど」で主題を絞り込む。

5 ラフスケッチ

ラフスケッチの方法を教えて、自分の思いを形にする。

- ① 簡単な図でポーズを表現できることを板書して気付かせる。
- ② 画用紙では身構えてしまうので、B 6 程度の小さな用紙を何枚も用意して、何度でも描き直し可とする。(安心感)



6 トリミング

版画はクローズアップで表現した方が分かりやすい。

そのために、ラフスケッチの部分を絞り込む。

※版画は初めての子どもには無理。教師がトリミングする。



7 下絵

絵が苦手な子どもは多い。さらに、下絵を丁寧に詳しく描きすぎて、この段階で疲れ果て意欲を失う子も出てくる。そのために、

- ① 日頃からクロッキーで1本線描法に慣れておく。
- ② デジカメでポーズを写して、それを見ながらかく。
- ③ 本の挿絵で似たポーズを探して利用する。(模倣の薦め)

※ 下絵が小さくなった子の場合は、コピー機で拡大してやる。

※ 子どもの下絵は全身像になりがち。画面からはみ出すぐらいの構図のほうが主題がはっきりして迫力が出てくるので、版木より大きめの紙に下絵を描く。



版木の大きさにトリミング

8 転写

カーボン紙や石けん液など転写の方法は多いが、どれも手間が掛かりすぎる。

- ① 版木に写す範囲を線で囲って、黒のコンテやパスでなぞり、バレンで擦るだけで版木に簡単に転写できる。
- ② 版木に写った薄い線を、油性ペンでなぞって形をはっきりさせる。このときに描き加えたり修正したりして下絵の完成。



9 白黒分け (墨入れと言う人も)

版画は、この[白黒決め]で作品の善し悪しがほぼ決定。

- ① 彫りが分かるように版木に薄墨を塗る。
- ※ 薄い色を付けた版木も市販されています。
- ② 白チョークで、「彫りの方向」を描き入れる。

版画の基本は「黒の塊」で表すこと。



絵の具の感覚で彫った作品。主題の「鳥」が黒のかたまりでないで、分かりにくい。



なので、初めての木版画は、周りの空気を彫るだけ。「黒の塊」の中は線彫りするだけ。

2回目以降で、もう少しレベルアップしたいときは、顔や手も彫る。



彫る方向を白チョークで描き入れる。



10 彫る

※ 版画で、彫刻刀で彫ることが面白く感じていた時期に、姉が授業中に誤って指を彫刻刀で刺してしまい、包帯グルグルの指で帰ってきたとき、怖くなって、楽しくなくなりました。というより恐怖を感じたことがありました。

※ 友だちが彫刻刀をうまく使いこなすことができずに、手に刺してしまう場面を何度も見ました。だから彫刻刀で彫ることが大嫌いでした。

※ 一番苦労したのは、彫刻刀で彫る作業だ。私は刀が怖かったので、おそろおそろ彫っており、線がきれいにならなかった。

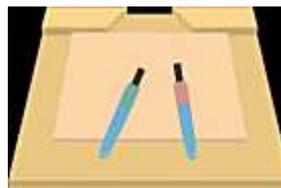
版画の魅力は彫る作業です。楽しい記憶の人が多かったのですが、

最優先は事故防止・怪我をさせないこと



厳守！！
彫刻刀の
刃先に
手を置かない！

そのためには
版画作業板を使うこと
古くて切れない彫刻刀を使わない



彫りは、浅く・短く・すくうように。
版画の魅力は、サクサクと掘り進めていく心地よさ。
子どもたちに、ぜひ、この快さを味わわせてください。



左手で刃先をコントロールしながら
彫ると失敗も怪我も防げます。

1 1 刷る

版画のもう一つの魅力 めくる楽しみ

初刷りは、版木がインクを吸い込むので薄くなりがち(-_-;)

一人で刷ると、紙がズレてピンぼけになりやすい(>_<)

そこで

「2人組で2度刷り」を指導する。

- ①インキを付けてバレンで刷ったら
- ②紙がずれないように、一人が押さえて
- ③そっと紙をめくり、薄いようなら
- ④もう一度、ローラーにインキを付けて刷る



1 2 展示

題名を考える → 自分の仕事をふり返る場
自分の作品への思いを新たにする場
自分の「今」を知ることが
自分の「成長」の出発点



題名があるのと無いのでは作品の感じが違う

※木版画の作り方で分かりやすい動画は [図工人 木版画]で検索→ビデオ解説のサイト

* 私にとっては「版画」の授業が最も重要でした。小学生の頃から図工が好きで絵画も工作も意欲満々にやっていましたが、版画だけはずっと好きなのに苦手意識がありました。やり方が分からなかったからです。

しかし、今回の講座で木版画を彫るには「力を入れず浅く浅く彫るべき」ということを知りました。また、苦手意識のもう一つの要因として「何故トリミングするのか」が小学生の頃の私には分かっていなかったからです。当時は自分の描きたいものを沢山描いた下絵を持って行くと、決まって先生に「一部分」だけをピックアップされ、そこを描くように指示されていました。「私はもっと描きたいものがあるのに、何故それを

描かせてもらえないのか」と、ずっと不満に思っていました。しかし今回の講座で納得できた気がします。

今まで描いてきた絵画作品は、魅力的だと自分が感じる所を無意識的にトリミングしており、しっかりとした概念がなかったので、友人に「何故トリミングを行うのか」と尋ねられても理由を明示することはできませんでした。しかし、概念をしっかりと理解することができ、もう今では、トリミングの重要性を伝えることができます。

より版画を好きになり、より多くの子に版画を楽しんでほしい。そう思うからこそ木版画の授業が私にとって一番重要であると考えます。

* 木版画の指導で一番大切だと思うのは、事故防止＝怪我をさせないことだと思います。美術の活動を通して喜びを味わってもらいたいのに、その一瞬の出来事だけで、一気に美術のイメージが悪いものとなるのは大変もったいないことなのです。今後、私が指導していくときは、怪我や事故に十分に注意して楽しくのびのびと活動できるような環境をつくっていきたいと思います。

* 木版画の彫りの指導で、黒の塊が多くなるようにして、黒と黒の間は細い白線、白と白の間は太い黒線になるように彫るということは大事だと思った。私自身がそんな指導を受けたことがなく、メリハリのない版画になってしまっていたからだ。コツを教えると、子どもたちの意欲や達成感も変わると思う。

* 私は、紙版画が大事だと考える。自分の手で紙をちぎったり、ハサミで切ったりと様々なやり方がある。絵を描くのが苦手な子も、これなら得意だと感じ、図工を面白いと感じとることができる。

また、人の顔をつくる場合、自分の顔を触ることで感覚的に掴むので、新たな発見も生まれる。そして、この授業では、上手下手に関係なく子どもたち全員が親しみやすい授業になります。

